

自分自身ができそうな被災地の農業再生について

2011年3月11日、埼玉県公立入試に合格し、浮かれていた僕の身を激しい揺れが襲った。かつてないほど大きな揺れだった。テレビに映った東北の惨事を見て、血の気が引くような思いをしたことを、今でも覚えている。

あれから4年以上が経つ。徐々に復興は進んでいる、あるいは進んでいる気がするものの、被災地の現状はどうなのであろうか。時が経っても、あの時の悲劇を忘れることはないと言い切りたいところではあるが、徐々に人々の意識から遠ざかっているように感じるのは、僕だけではないだろう。だが一方で、スーパーで福島産の野菜や魚介類が売っていれば、避けてしまう人はいまだに多いと聞く(僕の母親もその一人だ)。特に農作物は顕著にその傾向が表れているのではないだろうか。放射線の基準値をはるかに下回り、検査も十分にしているから、店頭に出回っているはずなのだが、敬遠する人が後を絶たない。このことから、被災地の農業における復興には、消費者の意識を変えることが重要であると思う。

消費者が東北の野菜を積極的に買いたいと思うようになるために、消費者が実際に現地を訪れ、農業に参加できる機会を設けてはどうかと提案する。消費者は、被災地の懸命に取り組む農家の様子を見て、野菜を買いたいと思うようになるだろうし、消費者が増えれば生産者のモチベーションも向上し、良い循環になると思われる。また、農家の話に耳を傾けることも必要であると思う。大人にかかわらず、被災地を自分の足で行くことで、今まで抱いていた思い違いに気付けるはずだ。そうは言うものの、僕自身、まだ被災地を訪れたことはない。大学の体験プログラムをはじめ、被災地を訪れるチャンスはある。そのような機会を利用したいと思う。

次に、除染後の農地の利用法である。僕は今回の講義で、初めて土壌汚染のメカニズムや土壌の除染方法を学び、いかに知識が不足しているかを痛感した。この状態で除染後の農地の利用方法を考えられないが、やはり既存の農業では対応できないことも事実である。テニスコートのような土に対応できる作物や広大な農地の新たな利用法を生み出す必要があると思う。

技術面で被災地の農業再生に貢献できることは、今の僕にはほとんどないかもしれない。だが、被災地の農家を訪ねたり、農家の方々と話をしてみることで、知識だけでなく、得られるものはたくさんあるはずである。そこで学んだことを他の人に伝えたり、共有する動きが至る所で見られるようになれば、消費者の意識も変わる。僕たちは、普通に東北の野菜を食べ、安全であるということを伝えていけたらいいと思う。また、僕は土壌の微生物に興味があるが、微生物など自然を利用した農業再生法を考えていけたらいいと思う。